

令和7年度 社会科授業改善推進プラン

台東区立桜橋中学校

	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	・毎回の授業に粘り強く取り組み、自己調整しながら基礎的基本的な知識を身に付けることができる。 ・資料やグラフを読み取る力を身に付け、教科書に書いてある内容を読み取るができる。	・基礎的基本的な知識が不足しており、社会という科目自体に苦手意識をもって入学してくる生徒が多い。 ・落ち着いて学習に取り組む習慣を身に付ける必要がある。授業規律を確立させる。	・「国名・都道府県名テスト」など、努力が結果に結び付きやすい課題を与え、成績の向上を評価することで、苦手意識の払しょくや学習へ向かう意欲の向上を図る。 ・授業の導入を工夫し、授業の流れの見通しを示すことで、生徒が意欲的に取り組める授業を展開することで、多くの生徒が集中してできる環境を作る。
2年	・教科書等の記述を参考にしながら、問いに対して自分なりの考えを持つことができる。 ・二つ以上の事柄の間に関係性を見付け、その理由について考察し、文章等で表現することができる。	・基礎的基本的な知識が不足しており、学習習慣が身に付いていない生徒が多い。 ・情報と情報を関連付けて考え、読み取れた内容から推測して結論を出すこと。	・知識問題の出題を予告しその結果に対して表彰するなど、努力が結果に結びつきやすい課題を与え、成績の向上を評価することで、苦手意識の払しょくや学習へ向かう意欲の向上を図る。 ・二つ以上の事柄の関係性を問うような課題に対しては、協働的な学習も取り入れながら、成功体験を積み重ねられるよう配慮する。
3年	・第1学年から第3学年1までの基本的な知識及び技能が身に付いている。 ・地理、歴史で学んだ既習事項を関連付けながら、見方考え方を活用し、現代社会の仕組みやこれからの日本について考えを深めることができる。	・知識及び技能を身に付け、活用し自分の考えを表現すること。	・協働的な学習を活用しながら、自分自身の考えをまとめ、発表する場を多く設定する。 ・公民の学習の中で、地理と歴史の既習事項を意図的に取り上げ、振り返りの機会とする。その際、2つ以上の事柄がつながっていることに気付かせ、社会という科目全体の関係性を感じさせる。